

令和7年1月18日

北関東フォーラム

於：シムックス

## 中斎塾 北関東フォーラム

### 令和7年度 第1回

#### 時代の流れ・・・変えるべきもの・変えてはいけないもの

明けましておめでとうございます。先日、真向法協会に行って真向法の椅子を使った体の手入れを教わりましたので、ご披露します。

椅子に座る時、よいしょと勢いよく腰をおろすのではなく、1、2、3、4、5くらいのリズムで、最後はお尻が椅子に触ったことを確認してからゆっくり座る。立つ時も机に手をついたりせず、ゆっくり1、2、3、4、5のリズムで立てば良いと体感しました。

良いなと思ったことは自分で実行してみて、人さまにもお話をする。それが少しずつ広がると自分にとっても良いし、話を聞いて実践した方にも良いと思います。

岡本理事長の開会挨拶は聞いていて楽しくなりました。チャットGPTが作った新年の挨拶を紹介され、ご自分より上手いと言っておられました。確かに天皇陛下のお言葉を連想しました。チャットGPTは、そういうところまで到達したのでしょうか。しかも無料だそうですから、無料で天皇陛下のお言葉のような文章を作るのなら、これはもっともっと世の中に広がりますね。我々も否応なく時代の流れに適応していくことになると思います。

世の中がどんどん変わっていくのにつれて、やはり変えなければならないと思う部分と、変えてはいけないものと二つあります。我々が学ぶものは、変えてはならないものを一生懸命学ぶこと。もう一つは、世の中の流れを見極めて、流れに沿って一緒に自分も変わっていくのか、これは変わらない方が良いとするか、ご自分の判断力を磨いてほしいと思います。

#### 巡察で感じた事

皆さんはどんなお正月を過ごされましたか。私は三日、警備のお客様の現場を巡察しました。元日は群馬、栃木、茨城を回りました。2日は郡山、3日は都内でした。

感想を申しますと、時代の流れに取り残されると感じた所、最先端の技術を駆使している所、取り残されたくないと思死にもがいている所がありました。視察に同行した役員や支社長、所長、指令さんといった色々なポストの方に感想を聞くと、同じ場所に行って同

じものを見、同じ体験をしても、その人の見る視点・考え方によって受け止めるものが違いました。自分がその時受けた印象だけ、目の前しか見えない、地域全体を見ていない人もいました。なぜ時代の流れを読まないのだろうか不思議でした。

具体的に申しますと、時代の流れに取り残されると感じた会社は、壁に大地震に備えての張り紙が貼ってありましたが、平成10年のものでボロボロになっていました。

最先端の会社というのは、テナント型の物流倉庫でした。中に入ると広々したフロアがあり、まるで一流ホテルのロビーのようでした。無人のコンビニもありました。商品は多くありませんが、電子決済で商品を買うのだそうです。これはお客様がどんどん来るだろうと感じました。ここは警備の他にビルメンテナンスで清掃も入るのですが、倉庫は常に綺麗なのです。汚れてない所を綺麗なまま維持する清掃をして欲しいという要望だそうです。私は、汚れている所を綺麗にするのがビルメンの仕事だと思っていました。考え方の基本が違う。私の見方がだいぶ違っていると感じました。なるほど、この会社は時代の先端をいっている。この会社は伸びる。見るからにそうでしたし、理念がまたそれにぴったり適合していると感じました。

時代の流れに取り残されまいと必死に足掻いている所は、設備機器を見ると古くなっているものが多いけれども、1割くらいを最先端のものに変えていました。生き残るか生き残らないかは、その会社のトップ次第だと感じました。

ということで、その会社の企業理念・経営方針、トップの考え方、それによって具体的な設備、人の扱い方はどうなっているか・・・そういう視点で見ると、時代に取り残される会社、最先端で突っ走っていく会社、五分五分の会社というのが見えました。

他にも巡察で回った中で、或る大学にお邪魔しました。すぐ近くに韓国の店が集まるコリアンタウンがあって、外国の方も多いい所です。大学に入った瞬間、私は安保紛争を思い出しました。この大学は地域紛争が起きた時、拠点になると感じました。地域の状況をよく把握していないと、あっという間に怪我人が出ることになる。地域の安全に非常に苦慮する場所だということを意識しました。

ということで、3日間の巡察は大変貴重な時間でした。

今年は、乙巳（きのとみ）です。「乙」は、曲がりくねってぶつかる。大きな困難が沢山出てくる年です。「巳」は、蛇ですから脱皮をします。人間も脱皮をして生まれ変わる。ですから今年は大きな困難にぶつかって、それを乗り越えることによって新しく生まれ変わっていく。大いなる挑戦の年とお考え下さい。

チャットGPTを活用して挨拶された岡本理事長は、まさに挑戦していく、最先端とい

う感じが致しました。色々な変化に対して、挑戦に次ぐ挑戦をする。様々な困難を乗り越えることによって、また新たな力、エネルギーを生んで、大いに挑戦して前に進んで参りましょう。

### 組織の長の心得るべきこと

では、最初のテーマに参ります。「組織の長の心得るべきこと」として、論語を五つ取り上げました。政治家によくよく聞いてもらいたい科白ばかりです。私が読みますので、後についてお願い致します。

(全員で素読)

初めて参加される方もおられますので、最初に申し上げます。「子曰く」は、今は学校でも「し、いわく」と読んでいます。以前は「し、のたまわく」と、孔子を尊敬する読み方をしました。他に「しの、たまわく」とも読みます。これらは昔の読み方ですから、こういう読み方をしたのだなあ…くらいに思っただけで戴ければよろしいでしょう。ただ読み方ひとつで内容が変わりますので、その点だけご承知下さい。

もう一つ、論語を読む時、論語の書かれた時代背景を見る必要があります。同時に、現代に置き換えて解釈しなければ意味が通じません。そうすることで、より理解が深まるわけです。

そもそも学問は常識を体系化したものですから、ほぐしてみればとても分かりやすいものなのです。人に分かるようでなければ、本物の学問ではないと思っています。私は論語を教えて戴いた石川梅次郎先生から、難しい事を分かりやすく教えるのが本物の学者、分かりやすい事を難しく教えるのは似非学者だと教わりました。

例えば、法律用語はとても分かりにくい。本音を隠して、わざわざ一般の人に分かりにくいように書いたのが法律の文章です。法律の文章を今風に分かりやすく解釈するために、弁護士という職業が生まれたのだと思います。

政治家や官僚がまともな人物と言えるかどうかは、難しいことを分かりやすく言えるか、そういう努力をしているか否かです。分かりにくく言っている人は、偽物です。難しいことを分かりやすく言うことができれば、政治家・官僚としてスタートラインに立ったと言えるでしょう。

では、解説しながら論語を現代に置き換えて見ていきましょう。

① 季文子、三たび思おもいて後のちに行いう。子こ之のを聞きいて曰いわく、再ふたびせこば斯かれ可かなり。

(公治長第五・19)

魯の国の宰相である季文子は、国使として晋の国に行く時、三度考えてから出発した。

季文子はとても慎重な性格で、出かける前に晋の君主の襄公が相当重い病にかかっていることを知って、喪服を持っていくべきか、国使として喪服の礼はどうするか等々さんざん考えたわけです。

その話を孔子が聞いて、「決断して実行するのなら、二回考えれば充分だ」と言われた。考え過ぎは良くないということです。

政治家は即断即決が大事、しかし2回考えなさい。聞いた瞬間、即座に返事をするのはちょっと待ちなさいということです。

② 子曰く、巧言・令色・足恭なるは、左丘明之を恥ず。丘も亦之を恥ず。怨を匿して其の人を友とするは、左丘明之を恥ず。丘も亦之を恥ず。

(公治長第五・24)

弁舌さわやかでニコニコして恭しい態度で近づいて来る。それが度が過ぎて、ゴマすりやご機嫌取りであれば良くない。昔の賢人の左丘明は、これを恥ずかしいと考えた。私も同じで、恥ずかしい。

腹の中に邪心があって人と対する、そういう底根が見えつつニコニコしながらお付き合いするのは良くない。左丘明はこれを恥ずかしいと考えた。私も同じで、恥ずかしいと思う。

政治家は人さまに対して、おべんちゃらを言うな、おべっかを使うな。良い事ばかり言わずに、本当の事を言いなさいということです。

選挙の時、政治家がニコニコしながら、一票お願いしますと近づいて来ます。しかし、腹の中はどうでしょうか。国会で政治家がお互い、いつか引きずり下ろしてくれようなどと思いながら、ニコニコ握手を交わしています。握手しながら、椅子の下で相手を蹴飛ばしているのがありありと見えます。全く劣化したものだと思います。

③ 子曰く、之を知る者は、之を好む者に如かず。之を好む者は、之を楽しむ者に如かず。

(雍也第六・18)

素晴らしいことを知っている。ただ、知識だけの人には知っているだけです。横の学問しか知らないということですから、あまり世の中の役に立ちません。

知識だけの人は、これを好きだという人には及ばない。

好きだという人は、それを楽しんでいる人にはかなわない。

残念ながら、横の知識だけで政治家になりたがる者が多い。

「楽しむ者」にも、両極端があります。政治によって世の中を良くする、平和をもたらすことが楽しいとなれば、そういう政治家は素晴らしい。しかし、自分の一言一句や態度で人々が動き回る、なんと楽しいことか・・・という阿呆な政治家もいます。毛沢東は自分の一言で国民を動かして、どれだけの人を殺したのでしょうか。政治家という人種は、人を殺して恥と思わない。戦争をして大変な数の人を殺したり虐殺した歴史が残っています。プーチン大統領は、苦渋の色を浮かべて戦争を決断したのでしょうか。私には分かりません。

④ し いわ めい し もつ くん した な れい し もつ た  
子 曰く、命を知らざれば、以て君子為ること無きなり。礼を知らざれば、以て立つ  
な げん し もつ ひと し な  
こと無きなり。言を知らざれば、以て人を知ること無きなり。

(堯曰第二十・3)

「命」は天命です。天命を分らない人間は、国を治めることは出来ない。

「礼」は人間として踏むべき一定の規範、ルールだと思って下さい。礼が身につけていなければ、位についても全うすることができない。

「言」は議論です。その人の論ずる意味が分からなければ、その人物を理解することができない。

天命をもって政治家をやっているか。礼儀作法を知らない政治家の何と多いことでしょう。

「言を知らざれば、もって人を知ることなきなり」は、坂本龍馬が西郷隆盛に初めて対面した時の逸話が参考になります。坂本龍馬は勝海州を刺し殺すつもりで会いに行ったのですが、話をするうち勝海舟に惚れ込んで弟子になりました。勝海舟の使いで、龍馬は西郷隆盛に面会をするわけです。戻って来た龍馬は西郷を評して、「釣鐘に例えると、小さく叩けば小さく響き、大きく叩けば大きく響く。得体のしれない人物です」と伝えました。それを聞き勝海舟は「評される人も評される人、評する人も評する人」と、どちらも人物であると評価したという逸話です。

坂本龍馬も西郷隆盛も、お互いを認め合う対話をしたのでしょうか。相手の話題についてこられなければ、どちらも人物であると評価することは出来ません。そのように、ここを

捉えれば良いでしょう。

⑤ 子の慎む所は、斉戦疾なり。

(堯曰第二十・3)

孔子が慎重を期したものは、斉と戦と疾である。

「斉」は、ものいみです。国家として最重要な行事では、精進潔斎・斎戒沐浴をして祭祀を取り扱う。

天皇陛下は日常的に人々の平和、幸せを願って全身全霊をもってお祈りをしておられます。これは世界各国の元首と言われる人たちと比べて、内容が違い過ぎます。似ているのは、ローマ法王の存在だと感じます。

「戦」は、戦です。

人類は戦争で滅ぶのではないのでしょうか。やはり戦争はやりたくはありません。

「疾」は、病氣です。

これらは皆、慎重にしなければいけないと孔子が言っています。

「疾」で、コロナが浮かびました。話が逸れますが、コロナは一体何だったのだろうかという問いが、世の中に増えた気が致します。

物事を考える時は「判断の三原則」で、本質を考え・歴史を見て・大局を抑える、と申し上げています。コロナの本質を考えるには、コロナによって利益を得た人は誰か、利益を得た国家はどこかを考えればよろしい。そうすると、コロナはどうして出てきたのか、誰が作ったのかという話になります。自然現象で生まれたという答えがあります。いやいや、儲けようと思う人間がコロナを生み出したという話も当初沢山ありました。このように物事の本質を見るには、何故？ 何故？…と考え、深く深く追求していくとよいでしょう。

### 恒例の質問

恒例の質問を致します。今年に入ってまだわずかししか経っておりませんが、お聞きします。

○今年に入って、良い日が続いていると思う方

○今年に入って、嘘はつかなかつたし、嘘もつかれなかつた方  
皆さん、良い人とお付き合いがあるようです。

○今年に入って、よく有難うと言っているし、有難うと言われ続けている方

○今年に入って、身体の手入れをよくやっている方

体のケアをやっていないと、病気になるります。

○今年に入って、自分磨きをやっている、よく学んでいる方

手が拳がった方は、自分で自分を褒めて下さい。

○昨晚寝る時、今日は良い日だった、我ながら満足して眠れる・・・そう思って寝た方  
忙しく動いている方は、バタッと寝てしまうかもしれません。ここでもう一つのポイントは、「今日は良い日だったな」と思って寝ると同時に、まだ目が開いていたなら、「明日も良い日だったな」と思って寝る努力をしてみてください。明日も良い日だったなあと  
思って寝ると、自然とお金が寄って来るそうです。

アメリカの大金持ちロックフェラーと中村天風先生の話少し致します。GHQで天風先生が講演をした時、ロックフェラーがヨガの秘伝を教わりたくて日本に来ました。その後、天風先生はロックフェラー夫妻とお付き合いが続いたそうです。或る時、天風先生がロックフェラーに、「それだけお金があるのだから、もう要らないでしょう」と聞くと、もっと欲しいと答えたという逸話があります。いくら稼いでも、いくら貰っても、もっと欲しいというのは如何なものかな、という話です。

お時間も参りましたので、最後に天風先生の面白い逸話をご紹介します。天風先生は茶目っ気があって、人様の度肝を抜くようなことが好きだったようです。

「いわき炭鉱」で千五、六百人の鉱夫が賃上げを要求して暴動が起きました。事態を収めて欲しいとの依頼があって天風先生が現場にいくと、炭鉱のある川向こうから、鉄砲でパンパン撃ってくる。天風先生は怯まず炭鉱夫たちの所へ行き、頭目に会わせろと言いますが、突っぱねられてしまいます。そこで、近くにいた鶏を捕まえて、エイっとなげをかけます。するとバタバタ騒ぎまわっていた鶏がピタッと動かなくなった。天風先生の度胸と、度肝を抜くパフォーマンスで、頭目と話をすることが出来、暴動を収めたという話です。

天風先生は講演会でも時々、鶏を氣絶させてみせました。天風先生のお弟子さんに藤平光一という先生がいます。藤平先生が、師匠がやれるのだから自分にも出来るのではないかと  
思ってやってみると、鶏がピタッと動かなくなった。そこで、藤平先生はあらかじめ鶏に氣合をかけておとなしくさせて、天風先生に差し出す寸前に元に戻す。そうすると鶏はもの凄く暴れる。天風先生はそれに氣づいて、「藤平、お前やったな。誰にも言うな」と言ったという逸話があります。

ちなみに、藤平光一先生は合氣道を植芝盛平先生に教わっていました。ご本人の書いたものによると、藤平先生は天風先生から、合氣道をやめて自分の所に来れば上げ膳据え膳で歓待すると言われたそうです。植芝先生も藤平先生に10段を与えて、後継者にさせたがったようです。どちらの師匠からも離れがたく困った藤平先生は、天風先生の心身統一道と、植芝先生の合氣道を合わせて、心身統一合氣道を作りました。

お時間になりました。本日の講話はここまでに致します。